

リスクマネジメント

[詳細は、当社Webサイトをご覧ください。](#)

基本的な考え方

JSRグループは、重大な危機の発生を未然に防ぐこと、および万一重大な危機が発生した場合に事業活動への影響を最小限に留めることを経営の重要課題と位置づけ、「JSRグループ リスク管理規程」を定めて、リスクマネジメントに取り組んでいます。新たなリスクや複雑化するリスクに対しても、グループ全体で可視化し、グローバルにリスク管理活動を推進していきます。

リスクマネジメント体制

JSRグループでは、サステナビリティ推進会議の傘下にリスク管理委員会を設置し、当該委員会が当社グループにおいて顕在化あるいは潜在化している重大なリスクを包括的に管理する体制を取っています。リスク管理委員会は、重大なリスクの特定を主導するとともに、関連する各委員会または各担当部門が行う当該リスクへの対応方針の策定およびリスクマネジメント計画の立案・実行を支援することで、当社グループのリスク管理を主導しています。特定された重大リスクについては、対応策の進捗状況をサステナビリティ推進会議および取締役会に報告しています。

また、リスクマネジメントシステムを内部統制システムの一部としており、内部統制システムの執行状況は、逐次、取締役会に報告されています。JSRの経営監査室が、会社法および金融商品取引法で要求されるJSRグループ全体の内部統制の整備・運用状況を継続的に確認・評価し、現存する業務上のリスクが許容レベル以下に保たれるように図っています。さらに、グループ全体の内部統制水準の維持・強化に努め、業務の適正かつ効率的な遂行を確保するために内部監査を実施しています。

リスクの洗い出しと重要リスクの選定

JSRグループでは、リスク管理委員会主導のもと、グループ企業を含む国内外全部門において、定期的にリスクの洗い出しを行っています。全部門からのボトムアップによるオペレーション上のリスク洗い出しに加えて、経営層による経営戦略および事業継続の基盤に関わるリスク洗い出しを合わせることで、潜在化している重大なリスクを含めた、包括的なリスク管理に努めています。洗い出されたリスクは、リスクマップの活用により経営への影響度と発生頻度の観点から区分され、特に事業継続に大きな影響を及ぼす可能性がある重要リスクを「JSRグループの事業等のリスク」として一覧化し、管理しています。その上で、それぞれの重要リスクへの対策立案と実行を主導する主管部門を定め、リスク管理委員会が適宜その進捗状況を確認することで、リスク管理を行っています。

直近の活動

各重要リスクについてそれぞれ対策立案と実行を進めていますが、当社を取り巻く事業環境において特に変化が起きているものや、中東地域での相次ぐ武力衝突、長期化するロシア・ウクライナの紛争などの個別事案による影響に対し

て、次のようなリスク対応の強化を進めています。

①地政学・国際情勢：グローバルでの政治・経済動向や、当社グループの事業運営に大きな影響を与える可能性がある各国の法規制等について、政府、外部機関・専門家等を通じて定期的な情報の収集・分析、ならびに社内共有を強化しています。また、事業ごとに、地政学リスクも踏まえた最適な拠点の在り方を検討しています。

②原材料の安定調達：当社では原材料の調達先を複数確保するなどして安定的な原材料の調達オペレーションの強化を進めています。また、安全在庫保有、代替輸送手段の確保などのBCP*1対策も実施しています。

③情報システム・情報管理：当社は、サイバー攻撃などの脅威から情報資産およびIT*2/OT*3システムを保護し、事業継続と企業価値向上を支えるセキュリティ体制の強化に取り組んでいます。グローバルでのルール整備と統制強化に加え、不審挙動検知や脆弱性管理などの技術的対策を継続的に実施しながら、高度化・多様化するサイバーリスクへの対応力を強化しています。また、グループ会社やパートナー企業を含め、監査、教育、演習、経営層への定期報告を通じて、PDCAサイクルを推進し、被害の未然防止と万一の際の影響最小化に努めています。

*1 Business Continuity Plan *2 Information Technology *3 Operational Technology